

見ているようで、実は見ていなかったということが恥ずかしい。毎朝運動場でドッチボールしている子どもたち。異年齢の子が集まり、わいわいがやがやたのしんでいる。毎朝顔を見せる1年生の女の子は、逃げ回ることが楽しいようだ。時々目の前にボールが転がってきて拾うことがあるが、投げる所は見たことがない▼4年生のある女の子は3学期になってからドッチボールに参加するようになった。その子が何気なく口にした言葉に驚いた。「4年生対6年生やで」▼どんなチームでしているのか気にしたことなどなかった。そういえば、後からあとからやってきた子は、だれかに話かけることなく、すっとコートに入っていた。ちなみに、1年生は6年生チームに入っている。5年生の子は、どうだったかな？▼子どもたちの中にチーム分けの暗黙の了解があるのだろう。素敵なことだ▼暗黙の了解は、子どもの世界にも大人の世界にもあるが、それによく似て異なる言葉は「同調圧力」だろうか。ただし、この言葉はあまりよい意味には使われない▼公の場でのルールやマナーの浸透は、よい意味での暗黙の了解である。そのことを「きまり」のごとく押しつけ、守らせようとするのは大人による「同調圧力」とも言える▼わたしたちは自ら考え、判断できる子を育てたいと思っている。「集団遊び」には、そんな要素がたくさん詰まっている。